

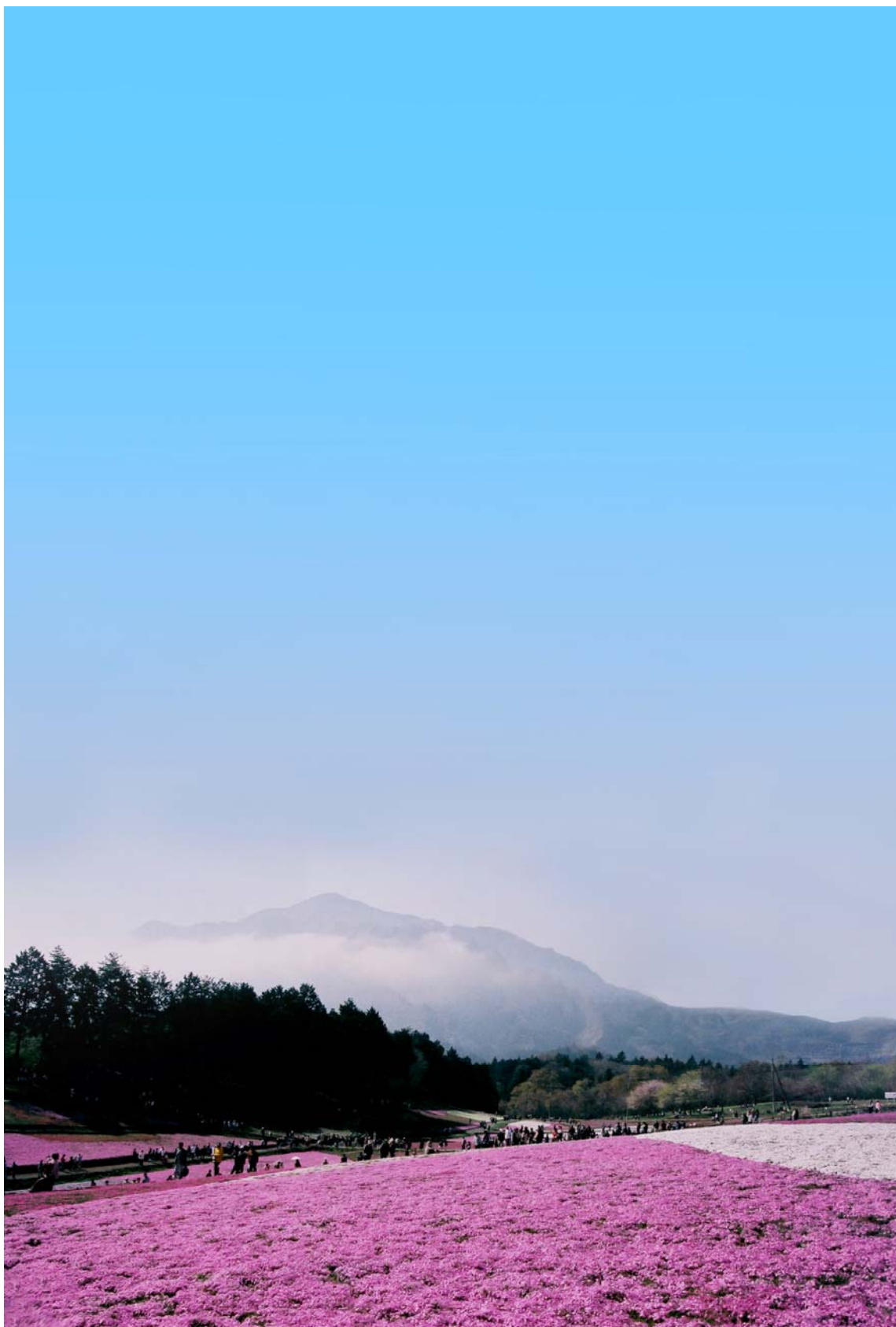
【Ⅲ】 春の庭を彩る草花

春は変化の季節である。昨日の花はまたたくまに散り尽くし、今日は今日の花が咲く。そして明日のことはわからない。雨になるのか、雪になるのか、それとも風が吹くのか…。そんな遷り変りの早い季節こそ春なのである。そして今日の雨が花を散らし、雨は明日また新しい生命を育み、今日の景色を明日の景色に変えてゆく。まさに猛浩然の『春暁』に出てくる「夜来風雨の声 花落ちること知んぬ多少ぞ」の世界である。福寿草が咲き、アネモネが咲き、オダマキが咲いて、春はしだいに熟してゆく。庭はまるでパレットに水彩絵の具を差したように、赤や黄色や緑の極彩色で彩られてゆく。春である。

春に栽培されている多年草のほとんどのものは、品種改良されて園芸種になったものである。だから自然の自生地を見れば育て方がわかる。福寿草は山間の陽当たりのよい斜面でよく見かける。こういう植物は陽が翳ると花を閉じてしまうものも少なくない。そして斜面は水はけがよい場合が多い。しかも土は腐葉土を多く含んだ黒土である。だから福寿草はそんな条件を満たすところに植えてあげたい。一方アネモネの原産地は地中海沿岸地帯である。地中海沿岸を含むヨーロッパは石灰岩で構成されていることが多く、そこに育つ花は、酸性土を嫌い弱アルカリ性の土を好む。時々石灰を施して、土が酸性化しない工夫をする必要がある。ちなみに日本の国土は火山帯の上にできているために酸性土であることが多い。

植木鉢やフラワーポットで育てるときはなおさらである。毎年土を入れ替えて、腐葉土をたっぷり入れて、できれば植木鉢も一回り大きくしてあげたい。そして時折化成肥料で養分の補給も忘れてはならない。こうすれば、狭い庭であろうと、植木鉢であろうと、花は毎年美しく咲いてくれる。人間が手をかければかけるほど、それに応えてくれるのが植物なのである。また園芸店でよく売られている鹿沼土や赤玉土は水はけがよく、同時に水持ちがよいという優れた特性を持っている。ここが砂や小石と違う点である。しかし鹿沼土は弱酸性の用土であることを覚えておくと、何かの折に役に立つ。そして一般に植物に肥料を与え続けていると、土は次第に酸性化されてしまうということも記憶しておこう。

※花序＝花柄の先端に花冠があることは先にも解説したが、この花冠の配列状態を花序と呼んでいる。チューリップのように茎頂に一花だけ付けるものを単頂花序という。しかし花序には多くの種類があり、大別すると有限花序と無限花序になる。前者は花軸の先端にまず花が付き、その下方に側芽が出て次の花が咲き、いつか咲き尽きるもので、後者は、花軸の先端が成長を続けながら次々と側芽を出して咲き続けるものである。花序の種類は[植物の用語集図説]にまとめて記した。



シバザクラが美しい羊山公園、後方は武甲山(埼玉県秩父市)。

この項に記されている植物のリスト

【Ⅲ】 春の庭を彩る草花

01-03-00-1

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1) フクジュソウ=福寿草 | 01-03-01-1 |
| 2) ユキワリソウ=雪割草 | 01-03-02-1 |
| 3) アネモネ | 01-03-03-1 |
| 4) オキナグサ=翁草 | 01-03-04-1 |
| 5) オダマキ=苧環 | 01-03-05-1 |
| 6) キンポウゲとラナンキュラス=金鳳花とラナンキュラス | 01-03-06-1 |
| 7) サクラソウ=桜草 | 01-03-07-1 |
| 8) シャクヤク=芍薬 | 01-03-08-1 |
| 9) パンジー | 01-03-09-1 |
| 10) マーガレットとデージー(ヒナギク=雛菊) | 01-03-10-1 |
| 11) シバサクラ=芝桜 | 01-03-11-1 |
| 12) シラン=紫蘭 | 01-03-12-1 |
| 13) スズラン=鈴蘭 | 01-03-13-1 |
| 14) クレマチス=鉄線花 | 01-03-14-1 |
| 15) タツタソウ=竜田草 | 01-03-15-1 |
| 16) ヒナゲシ/グビジンソウ=雛罌粟/虞美人草 | 01-03-16-1 |
| 17) キンセンカ=金盞花 | 01-03-17-1 |

目次に戻る
